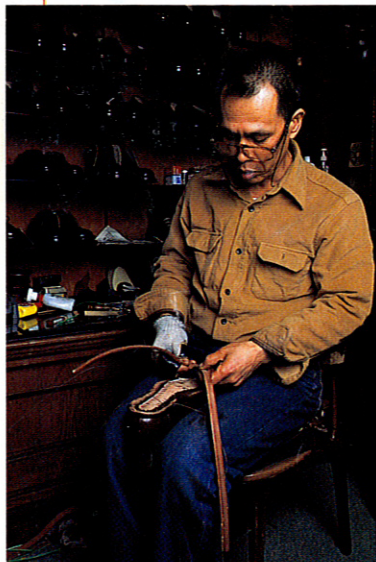




↑中敷きは湿気を吸い取ってくれる、牛や豚の革製がいい、と福島さん。湿気が溜まりやすい爪先部分の足裏は、サラサラの感触。



↑軽快な印象で、お洒落心もそそる2足。右のスエードのローファーは6万5000円、左の紐靴は6万円。オーダーメイドでも、この既製靴と同じ価格。



↑祖父も父も靴職人。「門前の小僧でして」と、さらりと言っている福島さん。接客のとき以外は、両膝の上で黙々と作業をしている。

「踵が食いつくような靴なら、足にしっかりとついてくるから歩きやすいし、軽く感じる」
 福島靖庸さん（54歳）は祖父の代から続く「コバヤシ」の4代目。靴を作る作業は、店の隅の椅子に座り、両膝の上で行なう。そして、出来上がった靴が既製品として、店内の棚に並ぶ。
 「手間は一緒やからね」と、注文靴の価格は既製品と変わらない。
 注文の際には、既製靴の中から好みの1足を選ぶ。もちろん、デザインや色、素材についてのわがままを申し出ることできる。続いて、福島さんが差し出す既製靴で、サイズのチェックをする。
 「寸法を測ってびつたりの靴を誂えても、それが履きやすいとは限らない。実際に履いてもらえばサ

コバヤシ

●大阪 曾根崎

注文靴も既製靴も値段は同じ
 往年のアイビー少年御用達の店



↑地下鉄谷町線「東梅田」駅から、徒歩約5分。「大阪」「梅田」駅から徒歩約8分。新御堂筋沿い。

↓創業は1921年。戦後に父親が、今あるこの場所に店を構えた。お洒落な人だった、という父親の時代からのファンも多い。



イズだけでなく、足の形や、当たりやすい所も分かるからね」
 既製靴には赤いローファーや、「おかめ」と呼ばれる飾り穴のついた紐靴など、1960年代からの定番モデルが多く並ぶ。その靴に熱中した往年のアイビー少年が、今も顧客として訪れるという。
 ●価格／6万円〜 ●仕上がり日数の目安／1か月以上 ●注文時の予約は不要